

新小文字病院総合案内

SHINKOMONJI HOSPITAL

GUIDANCE

患者中心の医療を目指して



社会医療法人財団 池友会

新小文字病院

Shinkomonji Hospital



救急医療を核とした、
より上質な医療を。

外科手術風景



甲斐 秀信

社会医療法人財団池友会
新小文字病院 院長
医学博士
日本消化器学会認定医
日本臨床外科学会評議員

医療の原点である
「患者中心の医療」を貫き通します。

新小文字病院は2008年1月1日に門司区大里新町に新築移転開業いたしました。

以来、救急医療や急性期医療において、この地域の皆さまのお役に立ちたいと全力で駆けつけています。「もっと良い病院にしよう!」というのが職員たちの合言葉ですが、では、良い病院とは何なのでしょう。いつも自らに問いかけ、地域の皆さまのお声に耳を傾け、あるべき姿を追い求めています。

私たちが願うことは、大きな樹木が真夏の陽射しを和らげ、木陰にいきいを作るように、激しい雨風を受け止めて、安らぎの場をつくるように「新小文字病院がそこにあるから安心して暮らせる」と感じていただけるような存在になることです。

私たちは単に病院であるだけでなく、地域の皆さまと共に歩み、地域の皆さまと一緒に未来を考え、地域の皆さまと力を合わせてこの地域を豊かにしていく、いつもそのことを考え続けています。

私たちはこれまで掲げてきた理念「手には技術、頭には知識、患者には愛」を医療人として、これからも守り続けます。そして、時代が求める医療のあるべき姿を常に追い求め、地域の皆さまから本当に愛される病院を創ること、それが私たちの夢です。

■ 病院理念

「手には技術、頭には知識、患者には愛を」

■ 基本方針

高度医療 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

総合医療 患者と医療情報を共有し、急性期治療から早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。

地域医療 地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。



脊髄脊椎外科 (脊髄脊椎治療センター)

最良の外科的医療を提供します。

患者さまを中心にした医療こそが真の医療と考えています。

私たちは平成8年4月から脊髄脊椎外科治療を行ってきました。

患者さまの苦痛に沿った医療を真剣に行うこと、信念にもとづいた医療を行うこと、そして何よりも池友会の理念である最良の技術と知識、そして患者さまに対する愛(新小文字病院理念:手には技術、頭には知識、患者には愛を)を実践した結果、患者さまの口コミを中心として広まり、外科的治療を受けようとする患者さまが増えたのだと思います。

現在では当院のみならず、関連病院である福岡和白病院・新武雄病院・新行橋病院・福岡新水巻病院・東京品川病院でも脊髄脊椎外科の診療を行っています。

そのため、九州のみならず日本各地から外科的治療を希望する患者さまが訪れており、当院だけでも年間約600例、グループ病院全体では年間約1,000例の脊髄脊椎の手術を行っています。近隣のみならず遠方からもご協力頂いている医療機関の皆様へ心より感謝致します。

私たちは、毎日早朝7時からフィルムカンファランスを行っています。夏はまだ明るいのですが、冬は真っ暗です。しかし、治療にあたる医師が個々の考えのもと個別に医療を行うのではなく、治療にあたる医師・看護師そしてリハビリテーション療法士などの医療チームが一人ひとりの患者さまに対して、同一の治療方針を共有するために欠かすことなく行っています。患者さまを中心にした医療こそが真の医療だと思っています。一人ひとりの患者さまに真剣に取り組む脊髄脊椎外科医療チームは、私たち以上はないと確信しています。

脊髄脊椎外科治療は整形外科でもなく、脳神経外科でもなく、脊髄脊椎外科を専門にして治療を行うチームが行うべきです。神経を含んだ運動器の治療であり、整形外科や脳神経外科にはとらわれず特化すべき分野と考えています。脊髄脊椎疾患の治療は簡単ではありません。手術も大変難しいものです。私たち『脊髄脊椎外科医療チーム』だからこそ質の高い医療を患者さまに提供できるのだと思います。

私たちは脊髄脊椎外科治療の最先端であるという自覚を持ち、そして奢ることなく患者さまの目線に立った医療を続けていこうと思います。



脳神経外科

最速の治療、そして、地域を支える脳神経外科を目指して。

24時間365日、いつでも救急対応に備えています。

高齢化により、脳卒中は身近な病気の一つとなってきています。当院では年間約400名前後、脳卒中の入院治療を行っています。その他にも、頭部外傷、脳腫瘍、機能的疾患など、神経に関わるほぼすべての疾患の治療を行っており、年間約900名の入院治療を行っています。

当脳神経外科診療「4つの柱」は、

- 地域医療(北九州の方のための医療:脳血管障害、頭部外傷、てんかん、頭痛、眩暈、しびれ)
- 専門医療(全国の患者さまのための医療:脳腫瘍、脳動脈瘤、顔面痙攣、三叉神経痛)
- 予防医療(脳ドック)
- 脳疾患のリハビリテーション(自宅に帰れるように、社会復帰できるように)

脳卒中と言えば高齢者に多い疾患というイメージですが、脳神経疾患にはその他にも、脳動脈瘤や脳腫瘍、頭部外傷などがあり、多くの脳神経疾患は、前触れなく突然襲ってきます。「脳卒中の治療は急ぐ」は、もはや常識となりつつありますが、当科では、「脳神経疾患の診療は全て急ぐ」と考え、24時間365日、いつでも対応します。

また、ひとたび脳神経疾患を発症すれば、麻痺や言語障害、認知機能障害などの機能障害を引き起こし、最速・最良の治療を行っても自立した生活を維持できなくなることがあります。しかし、治療開始から2週間前後の間に救えなかった神経機能も、その後のリハビリテーションにより取り戻せることがあります。当科では、早期のリハビリ介入もさることながら、中長期のリハビリを要する方に対しては、系列病院や近隣のリハビリテーション病院、療養施設への転院を、患者さまやご家族の負担なく行えるよう、病病連携、病診連携にも尽力しています。

平成29年度より、脳卒中ホットラインを開設し、最速の脳卒中診療を目指す一方で、患者さまやその家族の不安や負担を少しでも和らげることが出来るよう、「地域を支える脳神経外科」でありたいと思っています。



救急救命科

近隣はもちろん、遠隔地からも頼られる救急病院を目指して。

最先端の医療設備を活かして、チーム医療であらゆる緊急疾患に対応します。

最も大切にしたい救急医療は“歩いて来院される患者さま”への対応です。当院は国道に面し、格段にアクセスしやすい場所にあります。また24時間利用可能な駐車場も救急外来入口近くにあります。痛み・不安を一刻も早く取り除けるよう、救急患者さま専用の診療スペースや医療診断機器にて休日・夜間も通常時と変わらない医療体制を築いています。また、屋上にヘリポートを装備しています。病院専用のヘリコプターの導入により、これまで以上に広域の救急要請に対応できるようになりました。

手術室（5室）

24時間いつでも、すべての手術を開始することが可能です。年間約2,500例を超える手術が行われています。



ICU（集中治療室）

大きな手術を終えられた患者さまや、心不全・呼吸不全・脳障害等の重度の疾患を有する患者さま、一般病棟では全身管理が困難な患者さまの集中治療を行っています。経皮的心肺補助装置（PCPS）など、最先端医療技術を駆使して、循環・呼吸といった身体機能を回復・維持させます。24時間体制はもとより、患者さまの急変にも対応できるよう手術室に隣接しています。



救急医療の未来へ向けて。

医療搬送用ヘリコプター事業「ホワイトバード」の導入により、離島や僻地の患者さまの救急救命活動や、救急医療のさらなる拡充が可能となります。

社会医療法人財団池友会が行う、医療搬送用ヘリコプター事業「ホワイトバード」は、民間医療施設が行うものとしては沖縄県の浦添総合病院に次ぐ、ヘリコプターの医療用活用事業です。

この医療搬送用ヘリコプター「ホワイトバード」は、厚生労働省認可の「ドクターヘリ」だけではカバーしきれない、離島や遠隔地・僻地からの患者さまの搬送、医師や医療物資の搬送など、あらゆる救命救急搬送に柔軟に対応、威力を発揮します。





内科 循環器内科



内分泌・糖尿病内科 消化器内科

内科

患者さま一人ひとりにとって、
最良の診断と医療を。

当院の内科では、肺炎や気管支喘息、急性心筋梗塞等の急性期治療が必要な疾患を始めとする内科救急を含めた内科全般を24時間365日担当させて頂いております。また、最近では生活様式や食生活の多様化により、昔はあまり経験しなかった種類の疾病に遭遇する機会が増しております。いわゆる生活習慣病と言われる、高血圧症、糖尿病、高脂血症、動脈硬化症、メタボリック症候群などをはじめとして、内科的な病気を中心とした総合的な視点から、患者さまの病気について診断、治療、食事の指導などを行っております。ただ単に病気を診るのではなく、一人ひとりの患者さまにとって最善の診断と治療が行えるように日々努力してまいります。

循環器内科

低侵襲なカテーテル治療を中心に
早期診断、治療を。

高齢化社会となり最近では生活習慣病が増え、合併症として虚血性心臓病(狭心症や心筋梗塞)、心不全、不整脈を発症する方が増加傾向にあり、中には自覚症状が少なく心臓が悪いとは思っていなかったため、発見が遅れ重症化しているケースもあります。当院では外来でも可能な検査(心エコー検査・負荷心電図検査・24時間心電図検査・冠動脈CT検査)で、早期診断を行い、必要症例に対しては薬物治療、心臓カテーテル治療、ペースメーカー治療を速やかに行うよう努めています。心臓リハビリや生活習慣病治療に対しても、リハビリスタッフ・栄養士も一緒に取り組んでおります。

内分泌・糖尿病内科

生活習慣病、慢性疾患を治すことで、
地域の皆様の健康増進に貢献します。

当科で主に扱う内分泌疾患には、〈1〉甲状腺疾患:パセドウ病(機能亢進症)、橋本病(機能低下症)、腫瘍性疾患など、〈2〉下垂体疾患:末端肥大症、下垂体ホルモン分泌不全症など、〈3〉副腎疾患:クッシング病、原発性アルドステロン症、副腎機能低下症などがあります。これらの疾患に対し最良の診断と医療を提供致します。特に原発性アルドステロン症の診断の為に必要な副腎静脈サンプリングの施行数は、2018年・2019年と2年連続で福岡県下で最多でした。

また代謝性(糖尿病)疾患には、〈4〉糖尿病、〈5〉高血圧、〈6〉脂質異常症(高脂血症)、〈7〉動脈硬化などがあり、これらに対し治療を行います。まずは栄養指導、運動療法などで改善を試み、それで難しい方には内服療法、インスリン治療へと進んでいきます。血糖コントロール困難な1型糖尿病患者さまに対してCSII(持続皮下インスリン注入療法)、CGM(持続血糖測定)など先端の治療も選択可能です。これらのあらゆる疾患の原因となり得る生活習慣病に対し、内分泌・糖尿病専門医として地域の皆様に最新・最善の医療が提供できるよう努めてまいります。

消化器内科

患者さまの病態に応じた
治療を行います。

当院では、経口・経鼻内視鏡を用いた胃の検査(胃カメラ)や鎮静剤を用いた大腸内視鏡検査で気軽に受けられるようにしています。外科とのコラボレーションで患者さまの病態に応じた治療を行えるように努めています。



外科

救急疾患から
癌治療まで。

24時間365日開いている地域の中核救急病院として、当科では腹部救急疾患に対して夜間救急手術が可能な体制を敷いています。また専門的に手術が必要な消化器疾患(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、脾臓)や乳腺疾患、鼠径ヘルニア、痔核治療なども取り扱っています。癌治療はガイドラインに沿った標準治療を基本とし、最新の内視鏡システムを用いた腹腔鏡手術を行っています。また近年は、肥満減量手術にも取り組んでおります。ひどい腹痛や吐血があった場合は勿論、他院で癌が見つかった場合でも当科の外来に一度来院して頂ければ、状態に合わせて対応致します。

呼吸器外科(呼吸器センター)

地域の皆様に信頼される、
呼吸器外科を目指して。

当院呼吸器センターは呼吸器疾患を総合的に扱う治療センターとして、平成22年4月に設置されました。当センターで扱う疾患は、〈1〉肺腫瘍性疾患(肺がん、胸膜中皮腫、転移性肺腫瘍、良性腫瘍)、〈2〉呼吸器感染症(膿胸、難治性肺真菌症)、〈3〉縦隔腫瘍、等があります。特に当センターでは、近年増加が著しい肺がんについて重点的に診療を行ってまいります。従来、肺がんの治療は手術、全身化学療法(抗がん剤)、放射線療法の三本柱でしたが、近年の分子生物学的手法や遺伝子解析の進歩などにより様々な分野の研究が進み、免疫療法など肺がんに対する新規治療法が開発されており、当センターでも行っております。当センターでは科学的根拠に基づいて最も有用と思われる治療法を、患者さま一人ひとりに提案し、実行してまいります。

整形外科

QOL向上を目標として、
運動器疾患の治療を行います。

当院の整形外科では、膝・肩などの関節の痛み、リウマチなどの慢性疾患と、交通事故・スポーツなどによる外傷の診断・治療を行います。慢性疾患である変形性膝関節症や変形性股関節症に対しては、投薬やリハビリテーションに加え、近年進歩が著しい人工関節置換術を中心とした手術療法を行っています。これは、関節の痛みの原因となる部分を取りのぞき、人工の関節に置き換える手術です。また、関節鏡を用いた肩や膝の手術も行います。肩の痛みで外科的治療が必要な方に対しては、内視鏡による低侵襲手術を行っております。(腱板断裂・脱臼など)また、スポーツ外傷に多い膝の前十字靭帯断裂や半月板損傷に対しても、内視鏡による手術を行っています。

形成外科

機能回復とQOL向上を目的とする
専門外科です。

形成外科の始まりは「失われた形態と機能の再建」にあります。先天奇形、擦り傷から重度の熱傷、皮膚の良性及び悪性腫瘍の治療、その他の癌切除後の再建手術、褥瘡を含めた難治性皮膚潰瘍、骨折を含めた顔面外傷、傷痕の修正などは古くから形成外科で取り扱われてきた疾患の一部です。その多岐にわたる疾患のどれもがより精緻で緻密な手技を要求されるものです。その形成外科の手技を土台にして一部美容外科手術、レーザー治療なども行っています。私たちは微力ながらも、患者さまのQOL(Quality Of Life)のより一層の向上を目指し、福岡県の形成外科医療の一役を担うべく存在としての診療を心掛けています。



泌尿器科(血液透析センター)

総合診療部

麻酔科

放射線科

泌尿器科(血液透析センター)

血液浄化療法に加えて排尿障害や尿路悪性腫瘍に対する治療においても高い専門技術を提供いたします。

平成28年度から新体制でスタートしております。排尿障害、尿路悪性腫瘍などの一般泌尿器科疾患から急性および慢性腎不全などの腎臓疾患まで広範囲の疾患に対して検査、診断、治療まで行います。泌尿器科疾患としては過活動膀胱や前立腺肥大症などの排尿障害から腎癌、膀胱癌、前立腺癌などの尿路悪性腫瘍まで各種ガイドラインを取り入れながら更に一步踏み込んだオーダーメイド医療を心がけて診療を行っております。また、血液透析センターでは28台のベッドサイドコンソールを有し現在約60名の血液維持透析を行っております。その他、急性腎不全に対する緊急透析、持続的血液濾過透析(CHDF)、エンドトキシン吸着療法、血漿交換など各種血液浄化も行っております。

総合診療部

総合的な診療を行い適切な科や専門病院へご紹介。

当院の総合診療部では複数の科にまたがる様な疾患に関して総合的な診療を行い、必要な検査を迅速に行った上で鑑別診断を行い緊急度・重症度に応じて該当する『科』へ紹介します。また疾患によっては適切な専門病院へ紹介することもあります。また、外科的診断や手術に対しても対応できる体制です。『どこの診療科を受診したら良いかわからない』といった患者さまがおられましたら総合診療部にご相談下さい。

麻酔科

最高のコンディションで安心して手術や検査を受けられます。

多くの人にとっては、麻酔は、手術の時や検査の時に、痛くないようにしたり怖くないように眠らせてたりすることでしかありません。最近20年ぐらいで、麻酔は安全性が高くなりました。薬の進歩や、麻酔に関するさまざまな技術の進歩など、麻酔科が、麻酔の安全性の向上への努力を続けてきたからです。手術中に起こるさまざまな問題に対処して手術を安全に終わらせる技術や、管理方法を進歩させてきたのです。私(麻酔科部長)は、高校の時に、父を麻酔事故で失ったので、麻酔科医になりました。それに、私自身が交通事故で骨折して手術を受けたこともあるので、手術を受ける方とできるだけ同じ目線で接しようと心がけています。

放射線科

頼られる放射線科医を目指し、日々研鑽を積んでおります。

放射線科は、平成30年4月より常勤医2名体制で全身のCT・MRIに加え、レントゲン写真の読影を行っています。CT・MRI件数は年間およそ3万件、1日およそ100件の件数があり、これらを読影していくのは大変ですが、質を落とさないよう気をつけながら日々読影しています。また、技師の努力もあり、CT・MRIは24時間体制で撮影可能です。

看護部

信頼される看護師を目指して。

私達は患者さまを一日も早く回復へ導くため、チーム医療の要としての役割を果たし、患者さまと共に喜び合える、そんな看護を提供しています。また私達は、患者さまやご家族、さらに職場の医療従事者からも信頼されるように、確かな知識と技術を養い、感受性豊かな看護師の育成を目指しています。

看護部方針

1. 患者さまを尊重し、患者さま個々のニーズに応じた質の高い看護サービスを提供する。
2. 看護の専門性を発揮し、チーム医療の中での役割を果たす。
3. 医療事故を予防し、安全で快適な療養環境を提供する。
4. 社会の変化に対応して、自主的に学習する態度と社会人としてよい習慣を身につける。

看護部理念

生命と人権の尊重

私たちは、患者さま・ご家族のかけがえない生命(いのち)と人権を尊重することを基盤に健康問題の解決(健康危機・健康破綻・健康回復及び平和な死)に努めます。

科学的看護実践

私たちは、患者さま・ご家族の価値観やニーズに応じた科学的看護実践を追求します。

専門職業人としての研鑽

私たちは、常に質の高い看護を提供できるように教育水準を高め、継続的に学習(研鑽)します。また、専門職業人として、自己実現を図ります。

教育体制

看護部教育は、「キャリア開発ラダー」を導入しています。みなさんのキャリアを支援する仕組みのことであり、個々の目標に合わせて看護実践能力の向上と学習ニーズに応えられる研修を計画しています。



看護部組織体制

- 看護部職員数 408名(内看護師354名)
(令和2年4月1日現在)
- 看護基準 一般病棟 196床……7:1看護
ICU 6床……2:1看護
HCU 12床……4:1看護
- 看護方式 継続受持固定チームナーシング
- 看護単位 8単位
- 勤務体制 2交代

看護部の取り組み

各部署における具体的な看護実践例をご紹介します。

チューター制度

私が新人看護師のチューターになり、約2ヶ月が経とうとしています。勤務が一緒の時は、積極的に自分から声をかけコミュニケーションをとり、良い関係が築けてきていると思います。今後も気軽に話せ、何でも相談できるチューターとして、一緒に成長していきたいです。(チューター看護師)



入社して2ヶ月がたちました。はじめの頃は分からない事ばかりで不安と緊張の毎日でしたが、先輩方が丁寧に指導してくれ、サポートを受けて日々成長できるよう頑張っています。困った時などチューターさんから声をかけていただき、業務はもちろんのこと、業務以外のことも相談に乗ってくださることで、安心して働くことができています。(新人看護師)

患者総合支援看護師



患者総合支援は、「外来・入院時支援担当」「退院支援担当」「退院調整担当」「医療相談担当」で構成されています。患者さま・ご家族の意向を確認しながら、地域の関係機関と連携を図り、外来や入院決定から退院までのさまざまな支援を行います。

認定看護師

当院に在籍している認定看護師を紹介します。



一人でも多くの方に質の高いケアが提供できるように日々頑張っています。

皮膚・排泄ケア 認定看護師 大谷 純子

皮膚・排泄ケア認定看護師の役割は、褥瘡やストーマそして失禁で困っている患者さま及びそのご家族に対して、高度な知識・技術をもって問題解決に努めることです。院内での活動を中心に、勉強会や相談に応じることで一人でも多くの方に質の高いケアが提供できるように日々頑張っています。



受講にあたっては病院がバックアップしてくれるので安心して頑張れます。

集中ケア 認定看護師 新井 祐介

集中ケア認定看護師として自らが役割モデルとなり、クリティカルケア領域の実践を通して看護職者への実践指導を行っています。認定看護師としての受講にあたっては病院が全面的にバックアップしてくれますので、いろいろな認定分野へのチャレンジができる環境だと思います。今後認定看護師は増えていく予定です。



安全な療養環境を提供できるよう皆で取り組んでいます。

感染管理 認定看護師 小嶋 隆広

「患者さま、病院を訪れるすべての人々、そして医療従事者を医療関連感染から守る」という感染管理のゴールに向かって、現在専任の感染管理担当者として組織横断的に活動しています。感染対策研修会の実施や、相談業務、サーベイランス実施、院内ラウンドといった感染予防・管理プログラムを病院のすべての人々と協力し実践しています。



安全・安楽・確実に治療ができるよう医師や薬剤師と連携しています。

がん化学療法 認定看護師 松田 静江

化学療法をうける患者さまが安心して治療が継続できるよう支援しています。がんの化学療法とは、がん細胞を攻撃する薬(抗がん剤)を使う治療のことです。がん化学療法認定看護師として、主に外来化学療法室で投与管理や副作用の観察、化学療法をうける患者さまとそのご家族の心理的支援などを行っています。医師や薬剤師と連携し、患者さまが安全・安楽・確実に治療ができるよう頑張っています。



認知症者を中心とした人々が笑顔で過ごせるように頑張っています。

認知症看護 認定看護師 松尾 圭祐

超高齢社会である日本で今後も認知症者は増加する傾向にあります。しかし、社会的にも認知症者への理解が乏しいのが現状です。認知症看護認定看護師として認知症者のできることに注目し、代弁者となり、尊厳を守ることで認知症者を中心とした人々が笑顔で過ごせるように他スタッフの協力を得ながら頑張っています。



生活支援についてチームで一丸となって取り組んでいます。

脳卒中リハ 認定看護師 西山 奈津美

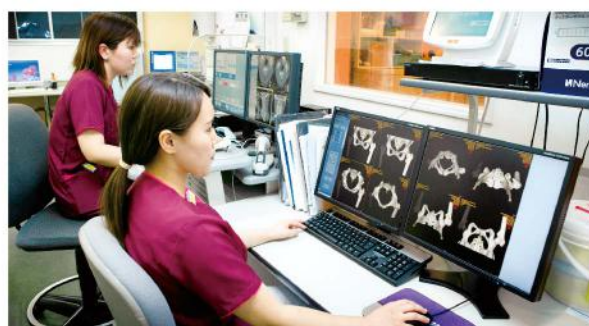
脳卒中発症後、麻痺や高次脳機能障害により今までと違った形で生活を送らなければならない方もいます。発症直後より重篤化回避を行いながら多職種で協力して社会復帰に向けての介入を行い、患者さまの笑顔を一日でも早く取り戻せるような看護を目指してスタッフと一緒に頑張っています。



医療技術部

放射線科 検査科 薬剤科 栄養科 リハビリテーション科 臨床工学科

放射線科



放射線科では単純X線写真から、CT、MRI、血管造影装置など最先端の医療機器を用い画像診断や治療を行います。適切な画像診断が医療の質を保証します。さらに、現在の医療は画像診断なくして成り立ちません。当院では、MRIをはじめ、最新の高度医療機器を地域に先駆け導入してきた経緯があります。急性期医療や人間ドックは勿論、さらには救急医療の場にあっても、患者さまを選ぶことなく最良の装置で検査できる環境を提供しています。24時間365日いつでもあらゆる検査を行えるよう、スタッフ教育を実施し、特に救急医療において必要な検査が遅滞なくできることに重点をおいています。

検査科



検査科には、充実した検査機器が揃っており、24時間いつでも検査可能です。検体検査室では、血液や尿などの検体を用いて、迅速かつ正確な検査結果を提供し、患者さまの状態を把握する手助けをしています。生理検査室では、高度医療機器を用いて、心電図・超音波(エコー)・肺機能・脳波など直接患者さまの状態を検査します。検査は身体に影響はなく、痛みもほとんどありません。我々臨床検査技師は、臨床各科の基盤を支える一部門として、医療の進歩に対応する最新の体制と設備を整えるよう努力していきます。専門資格を有するスタッフ(細胞検査士・超音波検査士・緊急検査士)が医師の指示のもと、早期発見・早期治療に役立てるように検査を行ってまいりますので安心してお任せください。

薬剤科



薬剤科では各病棟に病棟担当薬剤師を配置しております。病棟担当薬剤師は入院中の患者さまへ安全で安心な薬物療法を受けていただくために、入院時の持参薬の確認や使用する薬剤の説明、薬剤の管理方法など患者さま一人ひとりに合わせた服薬指導を行っております。また、入院中は患者さまからいただいた情報をもとに薬の飲み合わせや副作用、薬物アレルギーの有無を確認し、腎機能や肝機能に合わせた適切な量が使用されるよう処方設計と提案を行っております。これからは、地域の患者さまに信頼される薬剤師を目標に個々に合わせた詳細な薬剤の説明を行います。

栄養科



食事は治療の一環として重要な役割を担うため、栄養士と調理員が丸となって患者さまにより満足していただけるサービスを目指しています。

患者さま個々の病状に応じた食事の提供及び栄養管理や指導など、疾病の治療や予防のための栄養ケアを行い、多くの食種や食事形態に対応するとともに、病棟訪問や嗜好調査、選択メニューや行事食の実施などを行っています。また、糖尿病、脂質異常症、高血圧、肥満、心疾患などの疾患をはじめ嚥下困難な方や低栄養の方など幅広い方を対象とし、入院中から在宅まで患者さまが安心して食事療法を行えるよう、管理栄養士が食生活環境を踏まえた支援をさせていただきます。

リハビリテーション科



リハビリテーション科は、令和2年5月現在79名という多くのリハビリスタッフを病棟、診療科別に配置しています。それは、時間、質ともに充実した訓練を一人ひとりの患者さまに提供させて頂くためです。また、退院後の在宅生活に必要な“起きて生活する”“元気な身体の維持”を実現して頂くために、入院後早期よりリハビリスタッフが関わっています。さらに、病棟主体の訓練を通して、離床活動や運動の習慣化のお手伝いをさせて頂いています。これからは医師や看護師、他職種、さらに在宅で支援している方々とがっちりスクラムを組んで、どこまでも“一人の患者さまのために”を目指していきます。

臨床工学科



臨床工学科は、内視鏡・心臓カテーテルなどの検査から血液透析・高血圧酸素療法などの急性期・慢性期の疾患に対しての治療に携わっています。また、人工呼吸器、その他多くの医療機器の点検を毎日行うことで機器の安全性を高め、患者さまに安心して治療に専念いただけるよう努めています。その他、救急では、血液浄化・内視鏡・補助循環などの適応疾患に備えて24時間365日呼び出し体制をとって患者さまの治療を全力でサポートしています。

地域連携

医療連携室(患者総合支援センター)

地域活動

医療連携室(患者総合支援センター)

患者さまがより良い環境で治療を受けられるように、連携してサポートしています。

当院では医療連携室を設置しております。地域の医療機関・福祉施設と密接な連携を図るための窓口となり、

- 紹介患者さまが円滑に受診・入院できるように努める。
- 紹介元の医療機関へ、迅速に紹介患者さまの診療情報を届ける。
- 退院される患者さまの円滑な転院・在宅復帰を目指す。

ことを目標に調整・援助を行い、より良い医療連携の確立を目指しています。地域の先生方、患者さまがご利用しやすいよう努力しておりますので、ぜひ医療連携室をご利用下さい。

地域活動

健康フェスタ

平成22年より地域の皆様への感謝の気持ちを込めて、皆様とのふれ合いの場として健康フェスタを開催しております。ステージや各ブースで催し物を行っており、約1,400人の皆様にご来場頂いております。



健康体操・健康講座

地域の方へ向けて健康体操・健康講座を開催しております。新小文字病院オリジナルの体操と、当院の医師、医療技術部による講座を行い、運動不足の解消と病気の予防を目的とした活動を行っております。



研修医

これからの医療を担う若い医師の教育指導に力を注いでいます。

平成15年6月に医師法が改正され新たに医師臨床制度が施行されました。当院では平成15年11月に厚生労働省より管理型医師臨床研修指定病院の認定を受け、これからの医療を担う若い医師の教育指導・育成に力を注いでいます。

当院は「手には技術、頭には知識、患者には愛を」の病院理念のもとで、医師として、また人としての責任を果たすには、兼ね備えた学問、知識のうえに、多くの経験や洗練された技術に一層の磨きをかけ、愛を持って接しなければ「患者さまを救う」ことはできないとの信念を持っています。さらに、誠実に、しかもしっかりしたインフォームド・コンセプトを行い、理解と協力を求め、患者さまの期待に「献身的な態度」で応えられるよう心がけています。

当院は初期臨床研修の2年間で医師としての人格を涵養し、臨床医に必要な能力とされるプライマリ・ケアの基本的な診療能力を習得するとともに、病気を心身から全体的に診療する総合診療医(ジェネラリスト)や各専門医(スペシャリスト)を育てることに病院全体で取り組んでいます。

■臨床研修医受入実績

平成25年	4名	平成28年	4名	平成31年	3名
平成26年	4名	平成29年	2名	令和2年	3名
平成27年	3名	平成30年	3名		



ERにて実習



救急科



手術室

実習受け入れ

学校と連携し、学生が効果的に学習できるように教育環境を整えています。



理学療法士実習



薬剤師実習



作業療法士実習



看護師実習

人材育成

研修医 実習受け入れ

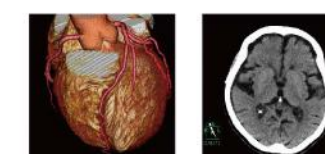
CT (64列マルチスライスCT) MRI 血管造影



CT (64列マルチスライスCT)

スピード・広い撮影範囲・高い分解能を持つ高性能CT。

64列CTでは従来の16列CTに比べ、約1mmの厚さで撮影したとき、1回転で4倍(4cm)の撮影範囲をカバーします。また1秒間に撮影できる範囲は約14cmと、圧倒的な速さを有します。このCTの特徴をまとめると、スピード・広い撮影範囲・高い分解能を持つということです。特に臨床では、心臓(冠動脈)CTが5秒程度の息止めで撮影でき、その診断においても、心臓カテーテル検査に迫る勢いです。



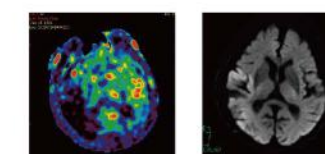
冠動脈

頭部

MRI

断層像をあらゆる角度から撮影でき、すべての領域の診断を可能にするMRI。

1980年初頭に登場したMRI(magnetic resonance imaging:磁気共鳴映像法)は大なる発展を遂げ、医学に計り知れない功績をもたらしています。頭部、脊椎など、人体の断層像をあらゆる角度から撮影でき、すべての領域の診断を可能にするMRIは、まさに現代医療には欠かせない有用な装置です。当院では昭和62年に北九州ではじめて1号機を導入しています。現在では最新鋭3.0T(テスラ)MRIによる精度の高い診療を提供しております。



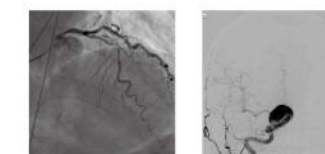
頭部

頭部

血管造影

フラットパネルディテクタを搭載した最新鋭のシステムを導入しています。

血管造影は、先天性心疾患、血管性病変(動脈瘤・静脈瘤・動静脈奇形・動脈硬化、あるいは血栓症による血管の狭窄および閉塞など)の診断、脳、肺、肝臓、腎臓および四肢などの腫瘍性病変の診断などを目的に行われています。また、近年では診断のみでなくIVR(interventional radiology)として、血管の狭窄部位を拡げる血管拡張術、腫瘍を栄養とする動脈の、血管奇形による漏孔を人為的に詰める動脈閉塞術などを行っています。当院では、フラットパネルディテクタを搭載した最新鋭のシステムを導入することで、歪みのない高画質な画像で、被ばく線量の少ない検査が可能となりました。



冠動脈

頭部



人間ドック

「病の芽」を早期に発見、治療するには定期的に健康診断を受診することが有効な予防手段となります。

人は誰もが健康で長生きしたいと願うものです。

最近の健康への関心度の高さは日々の運動や食生活改善などの意識を高めることに大きく貢献しているといえます。けれども皆さんはご自分の身体のことを本当にご存知なのですか？

普段、特にこれといった症状も無く、見た目は健康そうな人でも「病の芽」が潜んでいるものです。このような「病の芽」を早期に発見、治療するには定期的に健康診断を受診することが有効な予防手段となります。

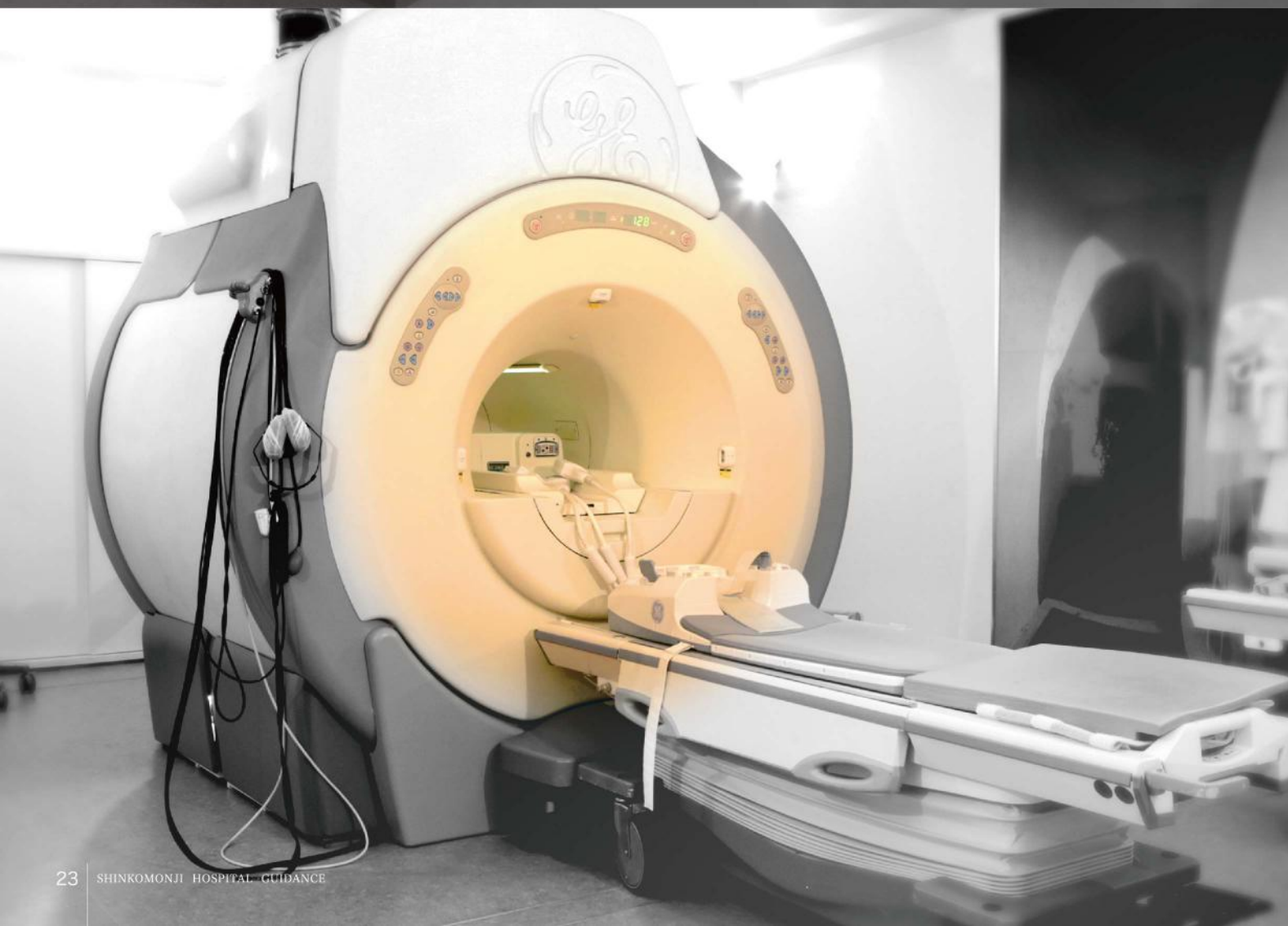
人間ドックのご案内

当院では救急医療で長年培った豊富な知識と経験を持つスタッフによる最先端の医療機器を駆使した人間ドックを提供しております。40歳以上の方はもちろんのこと、いままで健康診断を受ける機会の少ない主婦の方などには特に受診することをお勧めします。また初めて受診される方にも安心して受診していただけますように判りやすく、丁寧な健康診断を心がけておりますのでどうぞお気軽に受診ください。人間ドック受診がご自身の健康を見つめ直す有意義な機会となることを切に願います。



人間ドックの特長

- 64列マルチスライスCT、3.0テスラMRIなど救急医療の現場で使用している医療機器で検査を行います。
- 一部を除き、ほとんどの検査結果が当日に判明します。そのため検査結果の内容次第では同日に精査、治療を行うことも可能です。
- 日本人間ドック学会認定医、人間ドック健診専門医、脳神経外科専門医など各分野のエキスパートによる検査判定、結果説明が可能です。
- 脳検査(MRI)、マンモグラフィー検査などの多くのオプション検査も追加可能です。
- マンモグラフィー検査・乳房超音波検査は女性技師が行います。



治験管理室

新しいお薬を多くの皆様に安心して使用していただくために。

「くすりのたまご」が新しい薬(医薬品)として治療に使われるようになるためには、国(厚生労働省)から、薬として認めてもらわなくてはなりません。そのために様々な方法で試験が行われます。

中でも、健康な人や、患者さまに「くすりのたまご」を使用していただき、その効き目と安全性を調べる試験のことを治験といいます。このとき使用される薬を「治験薬」と呼びます。治験は実施する前に国に届出を行い、定められた法律に従って行われます。治験には、研究的な側面がありますが、参加される方々の安全と人権を守る為に、国が定めたルールのもと、倫理的・科学的に行われます。



主な施設・設備

人に優しい医療環境を実現します。



デイルーム

自然光を多く取り入れられる設計を元に、門司区から小倉北区にかけての市街地を見渡せる快適な談話スペースを提供しています。



特室

患者さまやご家族様がゆっくりとお過ごし頂けるよう、特別室をご用意しております。落ち着いて療養することが出来ます。



展望浴場

広々としたお風呂で、スッキリと汗を流して頂きたいという思いから、海の見える絶景の展望浴場を設置し365日開放。開放感のある浴室で、心身共にリフレッシュ。



食堂

全病棟に配置されている食堂は、海の見える絶景の場所に位置しています。また、入院患者さまには落ち着いて食事のとれるスペースだと好評頂いております。

1階には、日用雑貨や衛生材料・食料品を備えたコンビニと、外来受診後の患者さまやご家族の方々等にご利用いただけるよう、ラウンジがあります。バスの待ち時間などお気軽にお立ち寄りください。



1階コンビニ(売店)

営業時間 平日 8:30~18:00
日・祝日 9:00~18:00




1階ラウンジ

営業時間 平日 10:00~18:00
日・祝日 休み

医療相談窓口

月曜日～土曜日の9～12時まで、1階総合受付横、医療相談窓口にて医療ソーシャルワーカーが、転院・在宅療養に関するご相談、介護保険に関するご相談、身体障害者手帳に関するご相談、高額医療に関するご相談、その他(社会的・経済的・心理的など)の相談を受けています。医療安全に関してはリスクマネージャーがご相談を受けています。お気軽にご相談ください。

 当院は、館内禁煙とさせていただきます。喫煙者ご自身の健康のためにも、受動喫煙の害を防ぐためにも、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

海外研修・海外交流

海外研修など、幅広く活動を行っています。

新入職員の卒後教育、幹部養成教育への取り組みとして、各チーム毎のミニ研修から学識経験者などを招いての講演会、さらに海外研修まで幅広く研修活動を行っています。また、国内外の研究発表にも積極的に参加しており、医局・看護部を問わず毎年数十件の論文、研究発表を行っています。



カンボジアアンコール小児病院研修及びボランティアの様子



アメリカ研修



アメリカ研修

アンコールフレンズ基金

アンコール小児病院は、アンコール・ワットで有名なカンボジアのシュムリアップ市に、1999年1月に開院しました。ニューヨークに本部を置くフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー(国境のない友だち)の最初のプロジェクトとして建設された病院です。ニューヨークの写真家、井津建郎氏がアンコール・ワットの遺跡の写真を撮っていた時、周りに大勢の子どもたちが集まってきて、子どもたちの中に地雷で手足を失ったり、顔が傷ついた子どもたちを見て、「傷ついた子どもや、マラリア、デング熱にかかっても、貧しさのため治療が受けられない子どもたちのために、小児病院をつくらう」と決心したのがきっかけです。私たちは、フレンズ JAPANの理事長であり医療顧問である当病院の蒲池理事長をはじめ、職員全体で支援しています。1年間、103,000円のアンコールフレンズ基金を設立しましたので、ご協力をお願いします。

特定非営利活動法人 フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
TEL/FAX:03-6661-7558



病院沿革・施設基準等

手には技術、頭には知識、患者には愛を。

診療科目

■診療科目 内科／循環器内科／消化器内科／呼吸器内科／内分泌・糖尿病内科／外科／呼吸器外科／整形外科／リウマチ科／形成外科／病理診断科／麻酔科(松本守正)／泌尿器科／皮膚科／放射線科／脳神経外科／脊椎脊椎外科／リハビリテーション科／救急救命科

■治療センター 脊椎脊椎治療センター／呼吸器センター／脳神経センター／血液透析センター

病院概要

■許可病床数	214床	■入院患者の平均在院日数	12.8日
■救急患者数	年間3,400件	■新規入院患者数	年間5,700人
■手術件数	年間2,400例	■手術室	5室
■心臓カテーテル検査(治療を含む)	年間220例	■ICU	6床
■外来患者数	年間87,300人	■HCU	12床

Floor information

R _F	ヘリポート			
8 _F	病室／談話室／食堂／ナースステーション／展望風呂			
4 _F	5 _F	6 _F	7 _F	特別療養室／病室／談話室／食堂／ナースステーション
3 _F	健診センター／治験管理室／管理部門			
2 _F	各診療科(診察室・受付・待合室)／中央処置室／集中治療室／HCU／血液透析室／高気圧酸素治療室／手術室／内視鏡室／化学療法室／中央材料室			
1 _F	<p>薬局</p> <p>総合リハビリテーションセンター</p> <p>各種検査室 一般検査室／生理検査室</p> <p>各種撮影装置 MRI(3台)／マルチスライスCT(2台)／血管撮影装置(2台)／マンモグラフィ／一般撮影装置／骨密度測定装置／透視装置</p> <p>救急・時間外 救急救命室／時間外受付・診察室</p> <p>総合 総合案内／受付／医療連携室／待合室／ラウンジ／売店／図書コーナー</p> <p>各種検査室 一般検査室／生理検査室</p>			

病院の沿革

昭和56年	9月	小文字病院開院(83床)(小倉北区大島/院長:蒲池真澄)	7月	ICU18床に増床	
昭和58年	5月	184床に増床	8月	オーダリングシステム処置・注射・生理検査システム導入	
		救急指定病院に承認		医療搬送用ヘリコプター「ホワイトバード」運用開始	
昭和59年	9月	272床に増床	平成21年	2月	フィルムレス画像システム導入
昭和60年	9月	320床に増床		3月	高規格新型救急車の追加導入
昭和62年	10月	349床に増床	平成22年	2月	MRI(3T)導入
	12月	MRI導入		4月	社会医療法人指定認定
平成8年	4月	脊髄脊椎外科開設	平成23年	3月	災害拠点病院指定認定
	7月	ヘリカルCT導入		9月	開院30周年
平成13年	2月	MRI2台目(1.5T)導入		11月	開院30周年記念式典
	7月	マルチスライスCT導入		12月	日本医療病院機能評価ver.6へ更新
	8月	ICU10床に増床	平成24年	5月	内視鏡室増設
平成15年	6月	病床数189床へ(福岡新水巻病院開院の為160床転床)		7月	電子カルテシステム導入
	8月	MRI(1.5T)新規導入	平成25年	6月	64列CTをバージョンアップ
平成16年	4月	救急告示病院承認			16列CTを64列CTへ更新
		医師臨床研修指定病院認定			1.5TMRIをバージョンアップ
平成17年	8月	ICU12床に増床	平成26年	8月	ICU18床を14床に変更
平成18年	4月	64列マルチスライスCT新規導入			2階 HCU室4床新設
	8月	ハイケアユニット入院管理料承認16床に増床	平成27年	4月	日本人間ドック学会人間ドック健診専門医研修施設認定
	11月	日本医療病院機能評価機構認定病院		10月	病床数214床へ(福岡新水巻病院へ15床転床)
平成19年	10月	一般病床229床に増床	平成28年	3月	在宅療養後方支援病院承認
平成20年	1月	新小文字病院として北九州市門司区に新築移転		9月	ICU8床に変更
		新医事コンピュータシステム導入			一般病床を186床に増床
		再来機/光カルテシステム導入		10月	X線TV装置の更新
		オーダリングシステム放射線システム導入	平成29年	5月	骨密度測定X線装置の更新
		DPC対象病院	平成30年		ICU8床を6床に変更
	6月	一般病棟入院基本料7対1算定			HCU20床を12床に変更
		ハイケアユニット入院管理料承認20床に増床			一般病床を196床に増床

患者の権利と責務

- 1. 平等な治療を受ける権利があります。**
患者は、その社会的・経済的地位、国籍、人種、宗教、年齢、病気の種類によって差別されずに、平等な治療を受ける権利を持っています。
- 2. 治療を自己決定できる権利があります。**
患者は、医師による明確でわかりやすい言葉で十分な説明を受けた後で、治療を受ける権利、あるいは治療を受けることを拒む権利があります。
- 3. 情報を知る権利があります。**
患者は、医師による診断・治療、または変わり得る治療方法・予後、今後予測される問題に関して知る権利を持っています。
- 4. セカンドオピニオンを受ける権利とプライバシーが守られる権利があります。**
患者は、自分の医療内容に対して、医師と共同して選択する権利、他の医師からの意見・相談を得る権利、いかなる場合であっても人格的に扱われ、患者自身の診療に関する全てのプライバシーに関して、万全の配慮を受ける権利を持っています。
- 5. 相談する権利があります。**
患者は、十分な情報を得、利用可能な財政的支援について相談する権利を持っています。
- 6. 良質な医療を速やかに受ける権利があります。**
患者は、効果的医療行為を速やかに行われることを要求する権利、継続的に支持、検討された質の高い医療を受ける権利を持っています。
- 7. 病院秩序を守る責務があります。**
患者は、全ての患者が安全で良質な医療を受けられるように配慮して頂くとともに、職員が適切な医療を行うことを妨げないよう協力する責務があります。また、医療費を適正に支払う責務があります。

施設基準

当院では九州厚生局長に次の施設基準を届け出ております。【基本診療料】・重症者等療養環境特別加算・呼吸ケアチーム加算・医師事務作業補助体制加算2(15対1)・患者サポート体制充実加算・病棟薬剤業務実施加算・診療録管理体制加算1・ハイケアユニット入院医療管理料1・特定集中治療室管理料3・感染防止対策地域連携加算・急性期看護補助体制加算(25対1)・データ提出加算2(イ)・療養環境加算・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算)・入退院支援加算(加算1)・地域連携診療計画加算・感染防止対策加算1・精神疾患診療体制加算・総合機能評価加算・急性期一般入院料1・褥瘡ハイリスク患者ケア加算・医療安全対策地域連携加算1・抗菌薬適正使用支援加算・後発医薬品使用体制加算1・入院時支援加算

【特掲診療料】・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)・麻酔管理料(1)・糖尿病合併症管理料・無菌製剤処理料・外来化学療法加算1・画像診断管理加算1・画像診断管理加算2・冠動脈CT撮影加算・心臓MRI撮影加算・薬剤管理指導料・検体検査管理加算(1・IV)・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算・CT撮影及びMRI撮影・がん患者指導管理料イ・がん患者指導管理料ロ・がん患者指導管理料ハ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算・がん治療連携指導料・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)・胃瘻造設時嚥下機能評価加算・保険医療機関間の連携による病理診断・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製・保険医療機関間の連携における術中迅速病理診断組織標本作製・がん患者リハビリテーション料・心大血管疾患リハビリテーション料(1)・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)・運動器リハビリテーション料(1)・呼吸器リハビリテーション料(1)・集団コミュニケーション療法料・開放型病院共同指導料・がん性疼痛緩和指導管理料・硬膜外自家血注入・医療機器安全管理料1・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定・エタノール局所注入、エタノール局所注入(甲状腺)、エタノール局所注入(副甲状腺)・下肢末梢動脈疾患指導管理加算・経皮的下肢動脈形成術・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)・ヘッドアップティルト試験・輸血管理料II・院内トリアージ実施料・救急搬送看護体制加算・人工腎臓(慢性維持透析を行なった場合1)・導入期加算1・腹腔鏡下肝切除術・後縦靱帯骨化症手術前方進入によるもの・在宅療養後方支援病院

学会認定教育施設等

【施設認定】・救急告示病院・福岡県災害拠点病院・日本医療機能評価機構認定病院・医師臨床研修指定病院(管理型)・DPC対象病院
【学会認定】・日本内科学会認定医制度教育関連病院・日本泌尿器科学会専門医教育施設・日本脳神経外科学会専門医訓練施設・佐賀医科大学大学院研究機関認定(脳神経外科)・日本脊椎外科学会認定医訓練施設・日本外科学会専門医制度修練施設・日本整形外科学会認定制度に基づく研修施設・日本リウマチ学会教育施設・日本形成外科学会教育施設・日本麻酔科学会認定施設・日本病態栄養学会認定栄養管理NST実施施設・日本がん治療認定医機構認定研修施設・日本呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設(関連施設)・日本呼吸器学会認定施設・日本人間ドック学会人間ドック健診専門医研修施設
【その他教育・指定等】・指定等・病院群輪番制病院・救急救命士及び救急隊員の実習病院・福岡県臓器移植情報責任者設置医療機関・北九州地域メディカルコントロール協議会委員・日本病院会人間ドック指定施設・政府管掌健康保険生活習慣予防健診実施医療機関・北九州特定健診・介護予防健診・がん健診(胃がん・乳がん・大腸がん・肝炎ウイルス検査・前立腺がん)実施医療機関・看護師養成等実習施設・理学療法士及び作業療法士養成校実施訓練





Hidenobu Kai

Director of Shinkomonji Hospital
 Doctor of Medicine
 Certified Doctor of the Japanese Society of
 Gastroenterology Councillor of the Japan
 Surgical Association

Shinkomonji Hospital opened on January 1, 2008, following our new construction and relocation in Dairishinmachi, Moji Ward.

Since then, we have continued doing all we can to assist the people in our community through emergency medical care and acute-stage medical care. All members of hospital staff share the desire to make the hospital an even better one. Toward this end, we strive to be the ideal hospital while constantly asking ourselves what makes a truly good hospital and listening to feedback from the community.

Our wish is to become something like a great tree, which creates a place of rest under its shade by relieving one of midsummer sunshine and creating a peaceful shelter from heavy rain and wind, all of which invite community members to feel that they can lead a secure life because of Shinkomonji Hospital.

We are more than just a hospital. We continue thinking constantly about walking together with members of our community, visualizing a future with them and enriching the community along with them.

As medical professionals, we will continue to conform to principles, such as “Techniques for hands, knowledge for brains, and love for patients,” which have been set for many years. Our dream is to constantly pursue the ideal version of medical care in step with the times and to create a truly beloved hospital for the community.

■ The Basic Principles

“Hands on the skills, Knowledge in the mind, Love to patient”

■ Basic Policies

Advanced medical treatment.

We provide medical treatment of the highest standard.

Comprehensive medical care.

We share medical information with patients and provide full and complete patient care from treatment to early rehabilitation and home medical care.

Community-based health care.

We cooperate with other local medical and welfare institutions with strong emphasis put on providing emergency care around the clock.

**SHINKOMONJI
HOSPITAL**

Shinkomonji Hospital continues to be a leader in providing
 “patient-centered medical treatment” along with world-class emergency care.

Hospital Overview, Hospital history

“Hands on the skills, Knowledge in the mind, Love to patient”

Hospital Overview

Doctor clinical training designated hospital
DPC(Diagnosis procedure combination)
Official disaster center hospital of Fukuoka prefecture

- Number of sick beds/ 214 beds
- Ambulance patients totaling 3,400 per year
- Number of operations totaling 2,400 cases per year
- Outpatients numbering 87,300 per year
- The number of new patients is 5,700 per year
- The average number of hospitalization days is 12.8 days per patient
- Hospital bed utilization rate of 94%
- Operating rooms/ 5
- A 6 bed ICU
- A 12 bed HCU
- Clinical tests;
 - (1) Heart catheter, 220 cases per year with 79 of 220 cases being PCI
 - (2) MRI tests totaling 12,600 per year. 3 Tesla ... 1 unit. 1.5 Tesla ... 2 units
 - (3) CT tests totaling 19,401 per year
 - (4) Endoscope tests totaling 8,183 per year, GIF 7,311 cases, CF 872 cases, ERCP 81 cases
- Total Employees: 744
33 Medical Doctors, 6 Junior Resident Doctors
355 Nurses
79 Physical Therapists, Occupational Therapists, Speech Therapists.
271: Other staff.
- Heliport provided on the roof

Hospital History

1981	September	Opening of Komonji Hospital in Kokura North ward with 83 beds.
1983	May	Expansion to 184 beds. Komonji Hospital was officially designated as an emergency hospital.
1984	September	272 beds.
1985	September	320 beds. Establishment of the Medical Examination department and of a community health room.
1986	May	Expansion of the Outpatient clinic for sports related injuries.
	October	Established new departments of Occupational Therapy and Physical Therapy.
1987	October	Total beds increased to 349.
	December	Introduced the first MRI in Kitakyushu city.
1996	April	Established a new department of Spinal Surgery.
	July	Introduced the helical CT.
2001	February	Introduced the second unit of the MRI (1.5T).
	July	Introduced the multi slice CT.
	August	10 beds in the ICU.
	September	The 20th anniversary ceremony.
2002	June	Approval of the specific intensive care unit management charge.
2003	June	Total of 189 beds after moving 160 beds to Fukuoka Shin Mizumaki Hospital.
	August	Upgraded MRI (1.5T).
2004	October	Approval of Doctor clinical training designation hospital. The introduction of an ordering system.
	November	Established an ER department.
2005	June	Approval of the high care unit management charge.
	August	ICU beds increased to 12.
2007	October	Beds increased from 189 to 229.
	December	Opening ceremony for Shinkomonji Hospital.
2008	January	Shinkomonji Hospital was relocated to a new building in Moji ward, Kitakyushu.
	April	The introduction of the ordering system.
	July	DPC (Diagnosis procedure combination). ICU beds increased to 18.
	August	Introduction of 'White Bird' helicopter for emergency use.
2010	February	Introduced the 3rd unit of the MRI (3T).
	April	Accredited as a social medical corporation.
2011	March	Designated as an official disaster center hospital of Fukuoka prefecture.
	December	Updated to Version 6.0 of the Japan Council for Quality Health Care.
2012	May	Expansion of the endoscope rooms.
	July	The introduction of the electronic medical record system.
2013	June	Updated (CPU and applications of) the 64 MDCT. Upgraded from the 16 MDCT to the 64 MDCT. Updated the MRI (1.5T).
2014	August	ICU beds decreased from 18 to 14 after. Establishing of HCU on the 2nd floor.
2015	April	Certified as a specialist training facility for comprehensive medical examination by the JAPAN SOCIETY OF NINGEN DOCK.
	October	Number of hospital beds was 214. (Fifteen beds were relocated to Fukuoka Shin Mizumaki Hospital).
2016	March	Certified as a home care logistics support hospital.
	September	Number of ICU beds was 8. Number of beds for general patients increased to 186.
	October	Renewal of x-ray TV set.
2017	May	Renewal of x-ray apparatus for bone density measurement
2018		ICU beds decreased from 8 to 6 after. HCU beds decreased from 20 to 12 after.
		Number of beds for general patients increased to 196.
2020	August	Updated to Dual Energy CT.



関連施設

全国各地の関連病院施設で医療の連携や、関連教育施設で人材育成に努めています。

関連病院施設



福岡
社会医療法人財団 池友会
福岡和白病院
福岡県福岡市東区和白丘2-2-75
TEL.092-608-0001



福岡
社会医療法人財団 池友会
福岡新水巻病院
福岡県遠賀郡水巻町立屋敷1-2-1
TEL.093-203-2220



福岡
社会医療法人財団 池友会
新行橋病院
福岡県行橋市道場寺1411
TEL.0930-24-8899



福岡
社会医療法人財団 池友会
香椎丘リハビリテーション病院
福岡県福岡市東区下原2-24-36
TEL.092-662-3200



福岡
社会医療法人財団 池友会
福岡和白PET画像診断クリニック
福岡県福岡市東区和白丘2-2-76
TEL.092-608-1166



福岡
社会医療法人財団 池友会
福岡和白総合健診クリニック
福岡県福岡市東区和白丘2-11-17
TEL.092-608-0138



福岡
福岡和白リハビリテーション学院
福岡県福岡市東区和白丘2-1-13
TEL.092-608-8600



福岡
小倉リハビリテーション学院
福岡県北九州市小倉南区葛原東2-2-10
TEL.093-473-8005



佐賀
一般社団法人 巨樹の会
新武雄病院
佐賀県武雄市武雄町富岡12628番地
TEL.0954-23-3111



山口
一般社団法人 巨樹の会
下関リハビリテーション病院
山口県下関市今浦町9-6
TEL.083-232-5811



千葉
一般社団法人 巨樹の会
八千代リハビリテーション病院
千葉県八千代市米本1808
TEL.047-488-1555



千葉
一般社団法人 巨樹の会
千葉みなとリハビリテーション病院
千葉県千葉市中央区中央港1-17-18
TEL.043-245-1555



千葉
一般社団法人 巨樹の会
松戸リハビリテーション病院
千葉県松戸市和名ヶ谷1009-1
TEL.047-703-1555



東京
一般社団法人 巨樹の会
原宿リハビリテーション病院
東京都渋谷区神宮前6-26-1
TEL.03-3486-8333



福岡
福岡看護専門学校
福岡県福岡市東区和白丘2-1-12
TEL.092-607-0053



福岡
福岡水巻看護助産学校
福岡県遠賀郡水巻町立屋敷1-14-51
TEL.093-201-5233



東京
一般社団法人 巨樹の会
蒲田リハビリテーション病院
東京都大田区大森西4-14-5
TEL.03-5767-7100



東京
一般社団法人 巨樹の会
小金井リハビリテーション病院
東京都小金井市前原町1-3-2
TEL.042-316-3561



東京
一般社団法人 巨樹の会
赤羽リハビリテーション病院
東京都北区赤羽西6-37-12
TEL.03-5993-5777



東京
一般社団法人 巨樹の会
五反田リハビリテーション病院
東京都品川区西五反田8-8-20
TEL.03-3779-8820



東京
一般社団法人 巨樹の会
江東リハビリテーション病院
東京都江東区北砂2丁目15-15
TEL.03-6880-1555



東京
医療法人社団 東京巨樹の会
東京品川病院
東京都品川区東大井6-3-22
TEL.03-3764-0511



山口
下関看護リハビリテーション学校
山口県下関市竹崎町3-4-17
TEL.083-222-0606



佐賀
武雄看護リハビリテーション学校
佐賀県武雄市武雄町大字富岡12623
TEL.0954-23-6700



埼玉
一般社団法人 巨樹の会
所沢明生病院
埼玉県所沢市山口5095
TEL.04-2928-9110



埼玉
一般社団法人 巨樹の会
明生リハビリテーション病院
埼玉県所沢市東狭山ヶ丘4-2681-2
TEL.04-2929-2220



医療法人社団 埼玉巨樹の会
新久喜総合病院
埼玉県久喜市上早見418-1
TEL.0480-26-0033



埼玉
一般社団法人 巨樹の会
狭山中央病院
埼玉県狭山市富士見2-19-35
TEL.04-2959-7111



神奈川
医療法人社団 東京巨樹の会
みどり野リハビリテーション病院
神奈川県大和市中央林間2-6-17
TEL.046-271-1221



栃木
一般社団法人 巨樹の会
新上三川病院
栃木県河内郡上三川町上三川2360
TEL.0285-56-7111



栃木
一般社団法人 巨樹の会
宇都宮リハビリテーション病院
栃木県宇都宮市御幸ヶ原町43-2
TEL.028-662-6789



千葉
八千代リハビリテーション学院
千葉県八千代市八千代台北11-1-30
TEL.047-481-7320

交通アクセス



【お車で来院の方】

北九州都市高速 大里ランプより約8分

国道3号線 JR小倉駅より約15分

JR門司駅より約5分

【電車で来院の方】

JR門司駅より徒歩約10分

【バスで来院の方】

西鉄バス 新小文字病院前バス停で下車すぐ



救急告示病院／医師臨床研修指定医院／DPC対象病院
日本医療機能評価機構認定病院／災害拠点病院

社会医療法人財団 池友会

新小文字病院

Shinkomonji Hospital

〒800-0057 福岡県北九州市門司区大里新町2-5

TEL:093-391-1001(代) FAX:093-391-7001

Eメールアドレス info@shinkomonji-hp.jp

ホームページアドレス www.shinkomonji-hp.jp

外来診療時間 ●午前/9:00~12:00 ●午後/2:00~5:00

休診 ●日曜・祝日・土曜日午後 ※急患の場合はこの限りではありません。